

空泣英雄。

鳩巢老人室直清題

一、向本折村の古銭

寅四月三四日比より俄に寒氣催し、暴風にて雹降申候。十八九日迄に三度降候。十八日には近き山々雪降、鶴來村邊には平地にも雪降候。然共麥作に無害候や、五月に入近年無之麥出來の旨に候。惣て氣候寒冷に候。今月小松の近邊向本折村百姓與次右衛門と申者、田地を掘候所に、古き箱一つ掘出申候。其内に古銭二十五貫五百文餘有之候。大抵永樂・宣德等の銭、又は神開の銭も雜り有之候。如御法言上仕候所に、與次右衛門へ被反下候。

一、細井藤太夫家胡麻藥方

細井藤太夫今年八十一歳。官年七十九歳云。家胡麻藥方。胡麻一升并寒晒粳米二合、共に粉にいたし候ての升目也。甘草三分加之。鹽も加候得共、是は人々好み次第加減いたし候。胡麻製法は水に入、不沈は除之、沈を取舉蒸して日に乾し候。右三味雷盆にてすり候。如六味丸丹藥に成候を、空腹に白湯に入て飲之。一升の分量を以考合、何程にても如此。藤太夫は年

中胡麻三斗充毎歳用候。炎天の内胡麻を迄、右の内製置壺に入貯候へば年中有之、時々粳米・甘草を加候。黒胡麻性好を撰申候。能州田鶴濱の胡麻、御領内にては第一に候。藤太夫話。

一、勢州長島大手橋渡初の一家

勢州長嶋城大手際大橋及大破候に付、今年城主増山河内守殿より、新に出來有之候。四月廿一日渡り初被申付候。左の者共渡り候由。

長嶋駒江村百姓

作左衛門夫婦

男子七人、女子二人有之。

惣領

庄左衛門夫婦

第二子

清六 夫婦

第三子

平右衛門夫婦

第四子

又八 夫婦

第五子

勘七 夫婦

第六、第七者幼年に候。

源左衛門夫婦

鞆

清右衛門夫婦

鞆

十 六 人

孫

都合人數三十四人

右子孫共生來一人も欠不申候。橋渡初仕に付。増山殿より目錄を以酒肴等被下候由。

一、八丈島に始めて痘を生ず

八丈島去年始て痘瘡起り人多く死す。惣て餓卒許多に付、例年被渡下候員數の外米拜領仕度旨、八郎殿等より申來候。江戸へ御伺、尤被遣候。只今迄痘瘡無之地故に、八丈島織の絹布を痘を避くるの一物と致し候所、是も不足用候か。

一、朝鮮慶尙道叛逆人の追捕

朝鮮國慶尙道機張の内に於て、當三月中叛逆の張本人閔彦貴と申者を召捕、都表にて拷問有之處、機張縣監蔚山府使・東萊府使・郡守等同類の由致白狀候に付、右の面々詮議有之、其餘黨大勢にて騒敷、今以所々通路不自由に有之由。彼國の者共は自國の儀故に、深く秘申候由。所謂之儀は不申聞候得共、先承候通り彼地に指置候家來共より申越候に付、此段御案内申上候。猶又承合追て可申上候。以上。

寅五月七日

宗對馬守

一、太極圖述書寫等の儀室鳩巢來狀

太極圖述半分は自筆にて漸く調申候。今半分に罷成はか取不申候。もはや注解の所はすぎと濟申候。通論の卷未濟申候。頃日方々より、無餘儀碑文・愚議等頼越候て是に取懸り、別てはか取不申候。大方仕廻候間、追付取懸り可申と存候。

駿臺雜話 大阪より返し被申候。則土岐殿よりの紙面進申候。御覽可有之候。是は自筆にて候。其上文章もあの位の人には、格別恭しく見え申候。道を尊び被申候故と存候。是程大身の中に志ある人珍敷存候故、何とぞ彌よく仕度、此度右の雜話をも遣申候。比日松平土佐守殿參勤にて候。先日申進通、彼家人眞部金左衛門と申者、頃日も參り候て逢申候。土佐守殿殊の外被好學、只今日講聞被申候。其上不正の儀被禁候。奥方なども三絃の類取はやし候事、不罷成候由物語にて候。只今廿二三歳の人の由に候。是も奇特成人にて御座候。何とぞ續き候へかすと存候。扱は金左衛門も申候。よき師儒を被得候様にと存候。只今眞儒當地・京師兩所共掃地申候。無是非事に候。以上。五月二十三日。